



10 読谷飛行場返還の碑

碑は8基からなり、日本軍、米軍による飛行場接収から返還への道のり、度重なる基地被害、土地返還の抗議行動の歴史、軍事演習への抗議、飛行場を村の中心地へと変貌させた跡地利用計画の歴史などがテーマごとに記されている。

住所：読谷村字座喜味

お問合せ先：読谷村役場企画政策課

TEL：098-982-9205

GOAL!



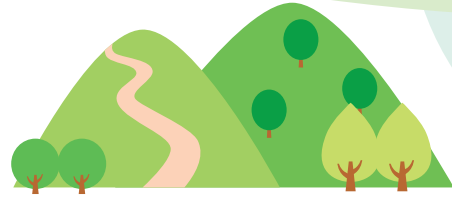
12 「艦砲め喰えー残さー」歌碑

読谷村楚辺出身の比嘉恒敏氏が戦中、戦後の苦難と犠牲者への哀悼の思いを込めた民謡「艦砲め喰えー残さー」（艦砲射撃の喰い残し）の歌碑。歌詞には平和を願う心情がつつられ、「恨でいん 悔やでいん あきじゃらん 子孫末代 遺言さな」（恨んでも悔やんでもまだ足りない子孫末代に遺言しよう）と結ばれる。楚辺は米軍上陸地の一つであり、歌碑広場から、日本軍による陣地壕跡、米軍基地トリイ通信施設に接収された楚辺の旧集落が望める。

住所：読谷村字楚辺

お問合せ先：読谷村楚辺公民館（読谷村楚辺 1928-1）

TEL：098-956-2326



11 不戦宣言の碑

読谷村遺族会、老人クラブ連合会、婦人会、議会、青年団協議会、児童生徒一同による不戦を誓った宣言が刻まれており、多くの人命が奪われた沖縄戦の経験から二度と戦争を繰り返さないことを決意表明し、日本国憲法の平和主義や非核三原則の遵守を訴えている。

住所：読谷村字座喜味

お問合せ先：読谷村役場企画政策課

TEL：098-982-9205



村南側から北側を望む航空写真。村中央部の飛行場跡地、トリイ通信施設以外に住宅地が密集。

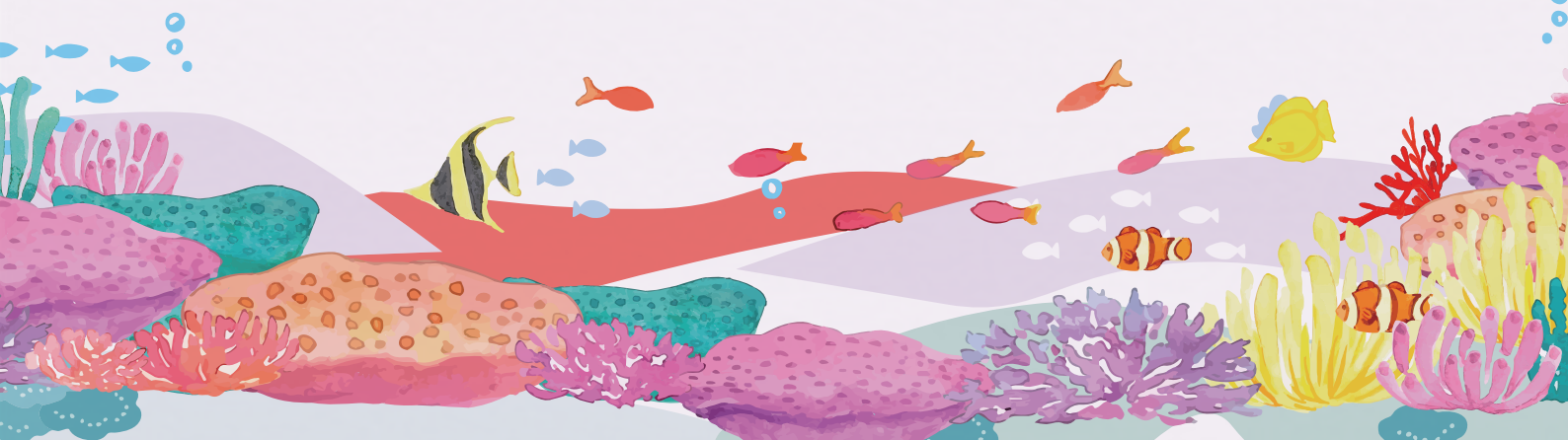
1972年日本復帰時約70%の村土が米軍基地用地として接収されていたが、2022年現在は約36%に減じている。

しかし現在もトリイ通信施設のほが国道58号より東側一帯の多くが嘉手納弾薬庫として接収されたままである。

広報活動

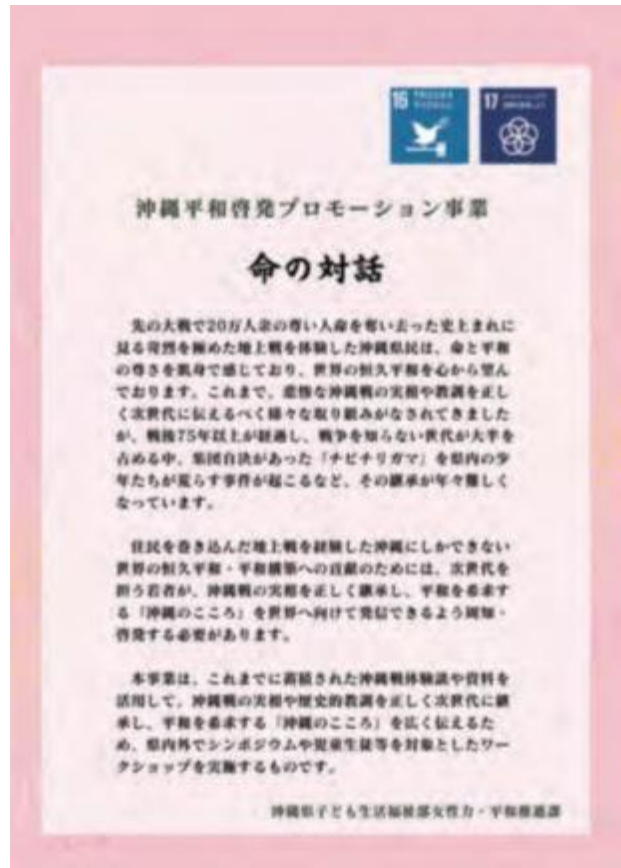


平和を希求する「沖縄のこころ」を県内外の
多くの方々へ発信しました。



「パネル展」展示物

本事業の柱、コンセプト／本事業への思い



パネル展開催日時

- ① 10月9・10日(日・月祝) 平和教育指導者養成講座(沖縄県・浦添市) ※沖縄戦関連展示のみ
- ② 11月26日(土) ちむどんピース in 横浜・鶴見(神奈川県)
- ③ 1月11日(水) 沖縄平和啓発シンポジウム(東京都)
- ④ 1月21・22日(土・日) ちむどんピース in 関西(京都府)
- ⑤ 2月26日(日) ちむどんピース in 読谷(沖縄県・読谷村)

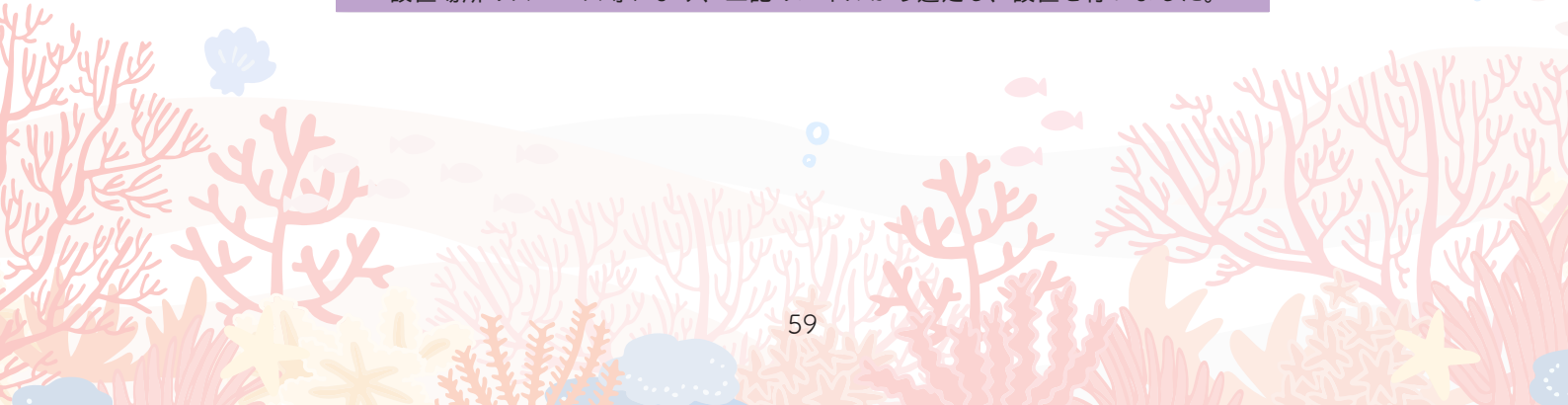
写真に見る、本事業の様子／ちむどんピースin横浜・鶴見記録パネル



パネル展内容

- ①事業の趣旨
- ②事業のコンセプト
- ③事業で開催している平和教育を写真で提示
- ④平和教育実績
- ⑤ちむどんピース in 鶴見開催の様子
- ⑥対馬丸生存者・語り部（平良啓子さん）のお話
- ⑦沖縄県平和祈念資料館所蔵、沖縄戦に関する平和教育教材キット
- ⑧命の対話「あなたの平和」メッセージを集めるコーナー設置

設置場所のスペース等により、上記のパネルから選定し、設置を行いました。



「パネル展」展示物

対馬丸生存者・語り部、平良啓子さん講演録パネル

沖縄平和啓発プロモーション事業

「私が、対馬丸を語り継ぐ意味」

平良啓子さん（「対馬丸」語り部）

なぜ、子どもたちは疎開しなければならなかったのでしょうか。
 1944年8月22日太平洋戦争中、沖縄から疎開する学童らを乗せて九州に向かった「対馬丸」が、アメリカ軍の潜水艦の攻撃を受けて沈没しました。800人近い子どもを含む多くの犠牲者が出ています。
 平良啓子さんは、国頭村に暮らしていましたが、小学校4年生（9歳）の時に対馬丸に乗船し奇跡的に生還し、現在は語り部として活動をされています。
 「生き残ってしまった」という思いを抱える平良啓子さんは語り続けます。



目の前の写真が、私を圧迫してくるんです
 あなた生きていてるでしょ？

何しているの？声をあげず頑張っているの？
 対馬丸で犠牲になったこの子どもたちが「語れ、語れ」と言うから私は語らなければならない。
 生きなければならないという気持ちになってしまいます。

寂しいねえ、
 お母さんに会いたいねえ

5隻で出港したのに、翌日になったら、
 4隻見当たらないんですよ。
 私たちだけ、対馬丸だけ。

私は軍国少女でした。
 大きくなったら従軍看護婦になりたい
 教育だから死ぬことなんか怖くなかった。

あっちこっち漂流している人達の
 残骸がサメがバーンとふつかって、
 海の中へ引きずっていき姿が見えま
 した。ちっちゃい子どもたちがサメ
 の餌食になったんです。
 サメがいっぱい群れてきて。

残ったのは9人の女性と 1～2歳くらいの男の子1人

日本軍10万人が沖縄に入ると食糧難になる。
 その分住民10万人を島から出せという軍の
 命令があったそうです。

ケイコハ ココニイル
 電報を受け取った母は半狂乱になって
 「啓子が大島で生きてる！」

軍から箱口令が敷かれ、
 対馬丸のことを言っちゃいけない。
 対馬丸が沈没したことは言っちゃいけない。

海を見ては当時の言葉を思い出して泣きます。
 「時子は太平洋においてきたの？」
 その言葉が今も私の心の中に痛みとして残っているんです。
 従姉妹の時子を私が殺したんだと。
 私は被害者だと思っていたら、加害者だったんだと。

生き残っている私は、
 みんなの代表で生きている。
 こういうことが二度と起こらないように、
 戦争をしないように、
 少しでもそういう暴挙があれば、
 命をかけてとめなければならない。
 そのために私は語り継いで、
 訴えていかなければならない。



写真提供：対馬丸記念館、展示室
 〒900-0031 沖縄県那覇市若狭1-25-37
<http://tsushimamaru.or.jp/>

本記録は、2022年11月22日対馬丸記念館において、語り部平良啓子さん、
 モデレーターに平良次子さんをお招きした語られた講演記録から抜粋しました。



📷 左右：東京シンポジウム（渋谷会場）風景

📷 左・真ん中上：ちむどんピースin横浜・鶴見展示風景



📷 右・真ん中下：ちむどんピースin関西展示風景

参加者の声

沖縄で新しい世代により、平和、戦争体験の学習が広がっていること、ワークショップ教材の現地、読谷村で資料の掘り起こしが進んでいることが理解できました。

先生方の実践や学芸員による資料の紹介、お話から、たくさんの学びを頂きました。

沖縄に行った際には、ひめゆり平和祈念資料館へ足を運びたいと思います。また、改めて沖縄県平和祈念資料館や対馬丸記念館にも行きたいと思います。

沖縄戦、戦後、現在に続く様々な苦難を抱えていると改めて感じました。沖縄からのメッセージ、受け止めました。

「新聞記事」

2022年(令和4年) 10月28日 金曜日 **沖 縄 タ イ ム ス**



世界の今重なる沖縄戦

【名護】県立とも生活福祉部は20日、名護市の名桜大学で「難民く沖縄戦、人の移動から考える平和」をテーマに講演会を開いた。県の沖縄平和啓発プロモーション事業の一環で、学生約130人が参加。講師を務めた沖縄NGOセンターの玉城直美代表理事は「世界で今起きていることは、沖縄戦でも起きていた」と話した。
(北部報道部・西倉信朗)

沖縄NGOセンター 玉城さん講演

玉城さんは世界の難民の数々にも触れながら、戦争や難や受け入れ国数といったテーマについて解説。身近な

名桜大で県平和啓発事業

沖縄戦に焦点を移し「沖縄でも同じことが起こっていた」と指摘した。

沖縄戦での住民の亲身体験を基に「100人入れる小さなガマと、千人入れる大きなガマ、あなたならどちらに逃げますか」などと質問を投げかけた。学生らは自身の判断が生死を左右する当時の状況に想像を巡らせた。

キロロの玉城千春さんが、読谷村の集団死について中学生と学んだ際、生徒らの感想を基に作ったという曲「Hope Dream Future」を紹介。学生らは歌詞に込められた思いや「自分たちには何ができるか」といったことを考えた。

学生らは授業の前後でアンケートに回答しており、「あなたに世界を変える力があるか?」という質問は、「ある」と答えたのは授業前は約6割だったが、授業後は約8割まで増えた。

玉城さんは「小さなことでも、平和のために何かができると思えるようになることが大切」と話した。

「ガマに何かを持っていけるなら、あなたは何を選びますか」と学生に質問する玉城直美さん(奥右)=20日、名護市の名桜大学

📷 世界の今 重なる沖縄戦、沖縄タイムス、2022年10月28日

沖 縄 タ イ ム ス 2023年(令和5年) 2月1日 水曜日

世界の県系人の歴史学ぶ

嘉手納の屋良小 NGO玉城さん講話



【嘉手納】沖縄戦と世界各地に移住したウチナンチュの歴史を学ぶ「びーすふるワークショップ」が24日、嘉手納町の屋良小学校(沖縄県盛幸校長)で行われた。沖縄NGOセンターの玉城直美さんが講師を務めるなど、海を越えて沖縄の戦後復興を支えた出来事を写真などで振り返った。

日本では唯一、地上戦が展開された沖縄の歴史を踏まえ「世界ではロシアによるウクライナへの侵攻や環境破壊、経済的困難などで平和に暮らせない人もいる。皆さんが平和を考え、戦争を起させない努力をしてほしい」と話した。
(中部報道部・砂山操)

【嘉手納】沖縄戦と世界各地に移住したウチナンチュの歴史を学ぶ「びーすふるワークショップ」が24日、嘉手納町の屋良小学校(沖縄県盛幸校長)で行われた。沖縄NGOセンターの玉城直美さんが講師を務めるなど、海を越えて沖縄の戦後復興を支えた出来事を写真などで振り返った。

📷 世界の県系人の歴史学ぶ、沖縄タイムス、2023年2月1日



戦争「今につながること」記憶継承の意義共有 沖縄・長野の大学生 オンラインで平和交流、琉球新報、2023年1月31日



平和の歌 願いや思い共有、沖縄タイムス、2023年3月7日

「メディア掲載」

メディア
取材回数

18回

新聞 10回 (沖縄タイムス 6回、琉球新報 3回、信濃毎日新聞 1回)
テレビ News (RBC、QAB、NHK 沖縄)、ラジオ (RBCi ラジオ 3回、FM 沖縄)
雑誌 オキナワグラフ

2022/10/25	平和発信へ沖縄戦学ぶ / 名桜大ワークショップ / 学生ら、ガマ避難を追体験	出前講座	新聞	琉球新報
2022/10/28	世界の今 重なる沖縄戦 / 名桜大で県平和啓発プロモーション事業 / 沖縄 NGO センター	出前講座	新聞	沖縄タイムス
2022/11/23	対馬丸の体験語り継ぐ / 生存者の平良啓子さん / 「戦争は許さない」使命感 / 犠牲者の写真に悲痛	対馬丸	新聞	沖縄タイムス
2022/11/23	対馬丸の生存者「戦争を許さない使命感」で体験を伝え続ける	対馬丸	TV	QAB(CATCHY)
2022/11/23	撃沈された疎開船「対馬丸」の生存者 過酷な体験を語る	対馬丸	TV	NHK
2022/12/22	沖縄移民や平和考える 東中でワークショップ	出前講座	新聞	沖縄タイムス
2023/1/7	東京で平和発信シンポ 11日オンライン配信も	東京シンポジウム	新聞	沖縄タイムス
2023/1/12	平和追及 全国へ発信 復帰 50年、東京でシンポ	東京シンポジウム	新聞	琉球新報
2023/1/12	「戦争は止められる」宮本さん、東京で訴え	東京シンポジウム	新聞	沖縄タイムス
2023/1/29	戦争の記憶 若者がつなぐ 長野大と沖縄の学生 オンラインで学習会	長野交流	新聞	信濃毎日新聞
2023/1/31	戦争「今につながること」記憶継承の意義共有 沖縄・長野の大学生オンラインで平和交流	長野交流	新聞	琉球新報
2023/2/1	世界の県系人の歴史学ぶ 嘉手納の屋良小 NGO 玉城さん講話	出前授業	新聞	沖縄タイムス
2023/3/7	平和の歌 願いや思い共有 キロロ玉城さんと曲作った生徒ら	ちむどんピース in 読谷	新聞	沖縄タイムス
2023/3/9	『集団自決の実相に向き合う』平和を学ぶワークショップ開催 Kiroro 玉城さんも参加	ちむどんピース in 読谷	TV	RBC

協力学校・団体24団体

沖縄県内 5校、県外 5校
県人会、社会教育、行政、NPO

横浜・鶴見沖縄県人会、沖縄県東京事務所、開発教育協会、神奈川県川崎市子どものフリースペースえん、
関西セミナーハウス開発教育研究会、読谷村、読谷村文化センター、ひめゆり平和祈念資料館、
対馬丸記念館、長野県、長野大学、AMICUS インターナショナル、沖縄県平和祈念資料館、JICA 沖縄

「ホームページ掲載」

沖縄平和啓発プロモーション事業デジタルにみるアーカイブ



事業報告書サイト情報

◀詳細はこちらから



アーカイブ映像

左記、QRコードより
ご視聴頂けます。

期限：2024年1月末まで

2023年1月11日、東京都渋谷区で
開催されましたシンポジウム
(詳細32～37ページ)をご覧
になりたい方はアーカイブ映像を
ご覧ください。

おわりに

本書をお手に取っていただき誠にありがとうございます。

太平洋戦争・沖縄戦終結の1945年から77年が経過し、昨年、沖縄は1972年の本土復帰から50年を迎えました。沖縄県では、先の大戦において、住民を巻き込んだ過酷な地上戦が繰り広げられ、多くの尊い命が失われ、豊かな自然とかけがえのない文化遺産が破壊されました。

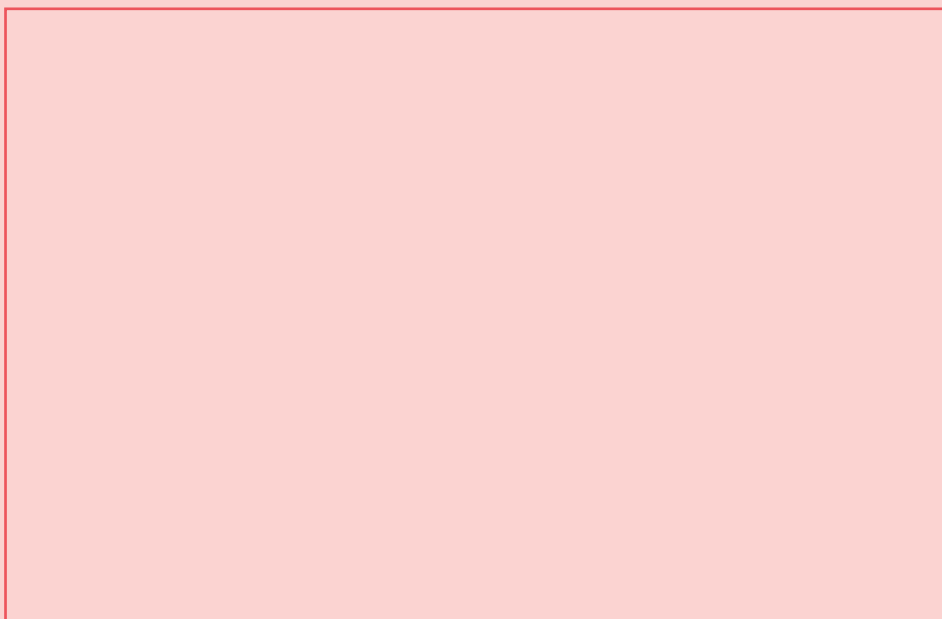
このような体験をとおして、私たち沖縄県民は、命の尊さと平和の大切さを肌身で感じながら、世界の恒久平和の実現を強く求め続けています。

本県では令和元年度から、より平和への行動を促すことを目的として「沖縄平和啓発プロモーション事業」を実施しており、一人ひとりが沖縄戦の実相や歴史的教訓を学び、平和の尊さを考える機会をつくり、行動していくためのきっかけとする取組を進めております。

令和4年度は、これまでに蓄積された沖縄戦体験談や資料を活用して、沖縄戦の実相や歴史的教訓を正しく次世代に継承し、平和を希求する「沖縄のこころ」を広く伝えるため、東京都でのシンポジウムや県内外で児童生徒等を対象としたワークショップ、平和教育指導者養成講座などを実施しました。

今後とも、平和を希求する「沖縄のこころ」が県内外、さらに世界中に伝わり、恒久平和の実現に寄与することを目指してまいりますので、引き続き、本県の平和行政の取組に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和5年3月10日
沖縄県子ども生活福祉部
女性力・平和推進課



1,072人が出前授業を受け、授業の終わりに「〇〇は平和」どんなことが平和かな?とコメントを書いてもらいました。
単語の頻出語をAIテキストマイニングによって出された結果の図です。

令和4年度 沖縄平和啓発プロモーション事業 報告書

発行：沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2 行政棟3階
電話番号：098-866-2500 FAX番号：098-866-2589

実施運営：(NPO法人)沖縄NGOセンター

発行日：令和5(2023)年3月10日